



階層	用途	面積	合計
1F	図書室	42 x 22 = 924	924
2F	図書室	(14 x 22) + (14 x 22)	616
3F	図書室	42 x 22	924
4F	図書室	42 x 22 - (7 x 1) - (2 x 1) - (2 x 1)	913
合計			3377

図書室A + 図書室Bの合計面積 1層高天井 666 m² x 4層 2664 m²
 図書室A + 図書室Bの合計面積 2.912 x 3層 8736 m²

X T () F
 △ 正 F () F
 △ 正 F () F
 △ 正 F () F
 △ 正 F () F
 △ 正 F () F

要求図面では表せない計画上の要点等について、次の(1)~(7)を具体的に記述又は図示する。

(1) 基準階(貸事務室A、貸事務室B及び共用部)について、次の①、②の観点から配慮したこと

- ①収益性(レンタル比に関する記述は除く。)や可変性 Δ キ-1(2) 貸し易く、可変性には因果関係がない
 貸事務室の形状は整形化をし、異行4Mとして併用床等とし、出入口を複数設けることで、貸し易くを表現して収益性や可変性に配慮した。に配慮し、貸事務室内の様々なレイアウトに対応できるように柔軟なレイアウトを確保し、
- ②快適性やテナント及び利用者の多様性 Δ キ-1(3) 利用者の多様性への配慮への手段との関係が不明確
 貸事務室は全面採光とし開放的な空間として快適性に配慮した。共用部は各階中にバリエーションをとりオアシススペースとし、バリエーションに配慮した。

(2) 最上階(シェアオフィス、共用部及び屋上庭園)について、収益性や快適性、多様な働き方に対応可能な空間づくりの観点から配慮したこと

階高を4.5mとする事で天井高3.0mとして開放的な空間とし、眺望のよさを活かして開口を大きく取り特別感のあるフロアとし収益性と快適性に配慮した。コアを中心に東西にゾーニングを行い合わせて利用ができるようフレキシブルとした。

(3) 採用した構造種別と、その構造種別を採用した理由(無柱空間とするに当たり工夫したこと及び耐震性や経済性等について配慮したことを含む。)

採用した構造種別	木造・RC造・SRC造・S造・その他()
採用した理由	耐震性、耐火性に優れ、変形能力に優れる鉄筋コンクリート造とした。
無柱空間の上部は	長尺スパンとするためRC造と工種・施工上の利便性の高いプレストレストコンクリート梁を採用し、スパンは4.0m、4.0m、4.0mとし極力経済的なスパンを計画した。

(4) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した空調方式と、次の①、②の観点から配慮したこと

採用した空調方式	個別空調式ヒートポンプ「コールド」方式
①設備スペース(室内機、室外機、配管スペース等)の確保	室内機は天井内へ設置し、室外機は区画ごとに設置スペースを確保した。配管スペースは空調用PSとして分散して設け、テナントの入替の容易さに配慮した。
②貸事務室A及び貸事務室Bの快適性	全面開口のため、パリアメーターゾーンとアンテリヤゾーンで空調ゾーンを分け、熱負荷に合わせて空調電力を適切に制御し、コールドドラフトを防止した。し快適性に配慮した。

(5) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した排煙方式と、その排煙方式を採用した理由及び配慮したこと

採用した排煙方式	自然排煙・機械排煙・その他()
採用した理由	大人数が利用する大規模な区画であることから、速やかに排煙できるような機械排煙を採用した。防火区画は500㎡以下に防火区画を設け、排煙口は距離30m以内で設置した。防火区画は天井から80cm以内の範囲内に高さ60cm以上を設けた。火災時に有効に排煙できるような計画した。

(6) 省エネルギー及び二酸化炭素排出量削減について、次の①~③の観点から配慮したこと

- ①パッシブ技術 キ-6(2) 庇の日射遮蔽効果が高いのは南
 貸事務室の東西面には庇を設け夏期は日射を遮蔽し冬期は日照を確保することで、全日暑熱負荷を抑制した。省エネルギーに配慮した。
- ②アクティブ技術
 照明はLED照明を採用し、昼光利用制御を導入することで、明るさによって適正な照度を保つようにして、使用電力を削減し省エネルギーに配慮した。
- ③その他(創エネルギー技術、材料の選定等)
 躯体のコンクリートには再生コンクリートを採用して資源循環に配慮した。二酸化炭素材料量を削減に努めた。 Δ キ-6(4) CO2削減削減策は弱い

(7) 貸事務室A又は貸事務室Bのペリメーターゾーンの断面詳細が分かる図やイラスト等(縮尺1/50程度、フリーハンドでもよい。)及び次の①~③のポイント(全て)イメージ図等記入欄に記入する。なお、(1)~(6)に記述した内容やその他工夫した点を合わせて記入してもよい。

- ①建築計画上のポイント(天井高、床高、天井ふところ等の寸法及び内装仕上げ、外装仕上げ等を含む。)
- ②構造計画上のポイント(柱、梁、床等の主要な構造部材(見えがかりも含む。))の断面寸法を含む。)
- ③設備計画上のポイント(空調、換気、排煙、照明等を含む。)

